

分析美学の諸問題

Problems of Analytic Aesthetics

- ① 美学(芸術学)の目的
- ② 芸術の定義
- ③ 作品と解釈
- ④ 美の定義
- ⑤ 美の論理学?
- ⑥ 美と意識
- ⑦ 美的と倫理的
- ⑧ 対象化
- ⑨ 情報美学
- ⑩ ジャンル
- ⑪ 進化美学
- ⑫ メタ芸術
- ⑬ 虚構
- ⑭ 観測選択効果(1)
- ⑮ 観測選択効果(2)

第4章 美の定義

- 美に本質はあるか(美は定義できるか) 個体か自然種か名目種か
- 純粋な美的経験は論理的に可能なのか
- 芸術と美 事実と価値 自然主義の誤謬 naturalistic fallacy
- 倫理的価値と美的価値 創造性と美
- 真、善、快、利、健、聖、愛、新…… 非美的価値と美的価値

○ 規範倫理学をモデルに

- § 義務論 普遍化可能性(黄金律) …… 美の規約主義?
- § 契約説 手続き的正義 …… 美の形式主義?
- ※ 帰結主義 …… 美の機能主義・適応主義?
 - 結果的正義(平等主義) …… 美の均衡主義?
 - 功利主義(快樂主義・行為功利主義・規則功利主義) …… 美の飽和主義?
 - マクシミン規則 …… 美の安全主義?
- # 徳倫理学 (人格主義・意図主義・原因主義) …… 美の形式主義?
- # 「神の命令」理論 (起源主義) …… 美の進化論?

[§ 行為そのもの ※ 行為の結果 # 行為の由来] を重視

○ メタ倫理学をモデルに

メタ倫理学からメタ美学へ

Alex Miller *An Introduction to Contemporary Metaethics* (Polity, 2003) p.8

倫理的判断は動機づけと必然的に結びつくか？

その動機づけは合理的な理由であるか？

倫理的判断は信念を表わすか？

その信念は真でありうるか？

その信念は人間的憶測から独立した事実に関わるか？

その事実は自然的事実か？

その自然的事実は倫理的事実を定義するか？

倫理的事実は他の自然的事実に還元できるか？

内在主義／外在主義

合理主義／実践主義

認知主義／非認知主義(投影主義)

錯誤理論

実在論／反実在論

自然主義／非自然主義(直観主義)

定義的自然主義／形而上学的自然主義

還元主義／非還元主義

美的判断(芸術的高評価)は動機づけと必然的に結びつくか？

その動機づけは合理的な理由であるか？

美的判断は信念を表わすか？

その信念は真でありうるか？

その信念は人間的憶測から独立した事実に関わるか？

その事実は自然的事実か？

その自然的事実は美的事実を定義するか？

美的事実は他の自然的事実に還元できるか？

美的事実は内的事実に還元できるか？

内在主義／外在主義

合理主義／実践主義

認知主義／非認知主義(投影主義)

錯誤理論

実在論／反実在論

自然主義／非自然主義(直観主義)

定義的自然主義／形而上学的自然主義

還元主義／非還元主義

内在'主義／外在'主義

メタ倫理学からメタ美学へ

「ノーマン・ロックウェルの絵よりアンドリュー・ワイエスの絵の方が美しい」

実在論 「ロックウェルよりワイエスの方が客観的に美の値が大きい」 自然主義／非自然主義

反実在論 「ロックウェルよりワイエスの方が大きいような美の客観的な値なるものは存在しない」

相対主義 「社会Sの基準では、ロックウェルよりワイエスの方が美の値が大きい」（仮定文）

主観主義 「私にとっては、ロックウェルよりワイエスの方が美の値が大きい」（私的言語）

投影主義 「ロックウェルよりワイエス—（そんな値があるかのようだ）」（比喻（態度の投影））

***表出主義** 「ロックウェルよりワイエスでしょ！」（態度の表出）

情緒主義 「ロックウェルよりワイエスの方が好きだ！」（感嘆文）

指令主義 「ロックウェルよりワイエスを重んじよ」（命令文、依頼文、推薦、提案、疑問文）

規範表現主義 「よし、ロックウェルよりワイエスを上位とする規範Cに従うぞ」（決意表明）

***虚構主義** 「規範Cからは、「ロックウェルよりワイエスの方が美しい」が導けるが・・・」（引用文）

****表出主義、虚構主義には、認知主義（主観主義）バージョンの余地あり**

内在主義 「・・・だから、私には、ロックウェルよりワイエスの方を好む動機がある」

合理主義的内在主義 「・・・だから、私には、ロックウェルよりワイエスの方を好む理由がある」

外在主義 「・・・だからといって、私には、ロックウェルよりワイエスの方を好む動機はない」

合理主義的外在主義

「・・・だからといって、私には、ロックウェルよりワイエスの方を好む理由はない」

錯誤理論

「・・・だから、私には、ロックウェルよりワイエスの方を好む動機がある（ただしそれは錯誤である）」

道徳の中心問題

(マイケル・スミス『道徳の中心問題』2006, p.18)

客観性と実践性のジレンマ

- ① 「私がφすることは正しい」という道徳判断は、主体にとってなすべき正しい行為に関する事実について主体が持つ信念を表わす (道徳判断の客観性)
 - ② 「私がφすることは正しい」と判断する者は、他の条件が等しければ、φするように動機づけられる (道徳判断の実践性)
 - ③ ある信念は、φする動機づけと結びついている (①②より)
 - ④ 主体が一定の行為をするよう動機づけられるのは、主体が特定の欲求と、手段・目的に関する信念を持つ場合に限られる (動機づけの定義)
 - ⑤ ある信念は、ある欲求と結びついている (③④より)
 - ⑥ 信念と欲求とは、相互に独立している (ヒュームの心理学)
- ∴ ⑦ ある信念は、ある欲求と結びついており、かつ独立している(矛盾)

- ・①→ 非認知主義
- ・②→ 外在主義
- ・④→ 反ヒューム主義(錯誤理論)
- ・⑥→ 反ヒューム主義
- ・⑦→ 論理的独立と因果的相関は矛盾しない (cf. 感覚機能とクオリア)

価値概念の定義不能性～未決問題からの議論～

●規範の未決問題 自然主義 vs 非自然主義

- ① いかなる記述的述語Fについても、「aはFである、しかし美しい」と述べることは矛盾ではない
 - ② 「これはFであり、Gでない」が矛盾でないならば、FはGを意味していない
 - ∴ ③ 「美しい」は、いかなる記述的述語とも同義でない
- ①→ すべての記述的述語に言えるのか 語法の詳細な網羅的解析により、「これはFである、しかし美しい」が矛盾するようなFを発見できるかもしれない
- 心理的無矛盾では、真の無矛盾を示せない (cf. 数学)
 - 情報価値と分析の失敗との混同 (分析のパラドクス)
 - 遂行的知識knowing-howと事実に知識knowing-that
- ②→ 「意味していない」のであっても、事実として同一かもしれない
- FがGの定義であるとまで要求する必要はなく、形而上学的同一性が言えればよい
(アプリアリ／アポステリオリな同一性の区別)
- ∴ ③→ 同義性はもともと不要(←②) 全称否定は疑問(←①)

●動機づけの未決問題 (選好の未決問題) 内在主義 vs 外在主義

- ① 「私はこの行為をなすべきである、しかし私にはこの行為をする理由がない」と矛盾なしに述べることができる (「これは美しい、しかし私はこれを好まない、私はこれを是認しない」)
 - ② 「P(Fする)、しかしFする理由はない」「P(Fである)、しかし私はFを好まない」が矛盾でないなら、演算子Pは動機づけに必然的に結びつかない
 - ∴ ③ 「べし」「美しい」は動機づけに必然的に結びつかない
- ①→ 「矛盾」を狭くとっていないか (心理的矛盾として)
- ②→ 「必然的に」を「分析的に」でなく「形而上学的に」ととることもできる
- ∴ ③→ 必然的結合でなく蓋然的結合で十分だろう 美については無関心性から当然の結論？

文献

Andrew Fisher *Metaethics* (Aumen 2011)

Alexander Miller *An Introduction to Contemporary Metaethics* (Polity 2003)

マイケル・スミス『道徳の中心問題』ナカニシヤ出版

A. J. エイヤー『言語・真理・論理』岩波書店

C. L. スティーヴンソン『倫理と言語』内田老鶴圃

R. M. ヘア『道徳の言語』勁草書房